

# 5月・6月の管理ポイント



5・6月は芝生の生育適期である一方で、強い日差しや梅雨入りによる過湿などのストレスが掛かりやすい時期でもあります。芝生に掛かるストレスを軽減し、夏越し準備を進めましょう。



根の生育しやすい  
土壌環境を整えましょう

## レボ

近年は梅雨に加えて台風やゲリラ豪雨などの短時間での大量降雨が増えています。レボは排水性が高く表層土壌の水分値を低めに保つため、過湿状態になりがちな降雨後にも気相をしっかりと保ちます。定期散布を行い根の生育しやすい土壌環境を整えましょう。

スプレーヤーによる定期散布にはバイタルドロップ、スポット処理や張芝した箇所には手播きしやすい粒剤タイプのハイドレーターGがおすすめです。

使用量：2ml/m<sup>2</sup>/月 散布水量：200ml~500ml/m<sup>2</sup> 散布回数：1ヶ月に1回~2回



サッチの除去  
土壌環境の健全化

## サッチクリーナー

サッチ成分のセルロース・ヘミセルロースを分解する酵素を主成分とした、酵素タイプのサッチ分解剤です。酵素そのものを散布するため即効性に優れており、サッチ分解量をコントロールすることが可能です。液剤であるため取扱いやすく、フィルターに詰まりません。農薬との混用や近接散布も可能です。土壌の透水性を改善しましょう。

土壌微生物が活発な時期になるので、微生物タイプのサッチ分解剤「サッチ・マネージャー」もおすすめです。

使用量：グリーン0.2ml/m<sup>2</sup> ラフ・FW・Tee0.1~0.2ml/m<sup>2</sup> 散布水量0.2~0.5ℓ/m<sup>2</sup>



強光ストレス予防

## インターセプト

5月にはすでに真夏並みの強い日光が降り注いでいます。ベントグラスにとって強すぎる太陽光は強光ストレスを引き起こす原因となります（過剰に取り入れた光により活性酸素が発生し細胞が傷つけられる）。インターセプト処理で、強すぎる光（ベントグラスが吸収する波長の可視光、紫外線）をカットし、強光ストレスを軽減しましょう。

使用量：1000~2500倍 散布水量：100~500ml/m<sup>2</sup> 散布間隔：7~10日



高温ストレスから  
ベントを守る

## ヒートファイター

ヒートファイターは、夏の厳しい暑さをベントグラスが生き延びる為のお勧め資材です。有効成分「ゼルンボン」が細胞を刺激することで植物自体が持つ高温耐性が活性化、通常では弱体化・致死してしまう程の高温でも生き延びられるようになります。梅雨明け前からの予防処理で、芝生の高温耐性を引き出しましょう。

使用量：0.5ml/m<sup>2</sup> 散布水量：100~500ml/m<sup>2</sup> 散布間隔：14日



光合成だけでは足りない  
養分の補給に

## グリーンメカ

梅雨時期は過湿による酸欠と日照不足が重なり、芝生がエネルギー不足になりやすい時期です。貯蔵養分を使い込む前に、糖・アミノ酸・ミネラルたっぷりのグリーンメカで足りないエネルギーを補給しましょう。

使用量：2~10ml/m<sup>2</sup> 散布水量：1ℓ/m<sup>2</sup>



土壌中の有害物質除去

## 光合成細菌









過湿状態の土壌中に発生しやすい硫化水素やメルカプタンなどは、イヤな臭いがするだけでなく根を痛めます。光合成細菌を処理して有害物質を除去しましょう。光合成細菌は硫化水素などを分解するだけでなく、他の有用微生物の餌となるアミノ酸やATP、ADP（高エネルギーリン酸化合物：補酵素）などを分泌し、有用な土壌微生物の住みやすい環境を作ります。サッチ分解剤と組み合わせると、サッチを効率よく分解できます。

使用量：1~2ml 1ℓ/m<sup>2</sup>散布 月1~2回

前号では、浸透剤の主成分である界面活性剤のタイプについて紹介しました。  
 そして今回は、浸透剤の性能に影響する界面活性剤分子の性質について紹介します。

## 界面活性剤分子の親水性・親油性

界面活性剤は分子中の親水基と親油基の割合が変化することで、様々な性質を示します。  
 性質がどのように変化するか、以下にまとめましたので見比べてみましょう。

	親水性の高い界面活性剤	親油性の高い界面活性剤
分子構造	分子中に親水基の割合が多い →水に近い性質 	親油基(疎水基)の割合が多い →油に近い性質 
水へ希釈時	 水に溶けやすく 希釈液は透明	 水に溶けにくく 希釈液は白濁
散布直後の葉の様子	 葉に付着する量が少なく 散布液が土壤に届きやすい	 葉に付着する量が多く 散布液が土壤に届きにくい
浸透する深さ	 土壤に届く量が多く、 処理層を深くまで形成	 葉や表層の土壤に付着しやすく、 処理層を深い層まで形成しにくい

近年、散布機器の進化や作業の効率化を目的として、スプレーヤーによる少水量散布が主流になっています。散布作業を効率的に行えて非常に便利な少水量散布ですが、従来よりも高濃度の散布液を使用するため、特に土壤浸透剤では効果を十分に引き出せていない場合があります。土壤浸透剤を選ぶ際には、利用する目的だけでなく散布方法にしっかりと合った製品を使用することが大切です。